令和６年度第２回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会

令和６年１２月９日

配　付　資　料

○令和６年度 鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿・・・・・・・・・・ Ｐ１

○【資料１】令和６年度第１回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・ Ｐ２

○【資料２】鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果について・・・・・・ Ｐ４

○【資料３】再掲：鈴鹿亀山地域中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）・・・ Ｐ１１

○【資料４】鈴鹿亀山地域の中学校卒業者数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移 Ｐ１２

○【資料５】再掲：鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（Ｒ７年度） Ｐ１３

○【資料６】各地域の学科別募集定員の割合(県立私立全日制)・・・・・・・・・・・ Ｐ１７

○【資料７】鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等・・・・・・・ Ｐ１８

○【資料８】再掲：令和 21 年度までの鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の
総学級数と当協議会の協議について・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ２０

○【資料９】令和５～６年度の協議における主な意見・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ２１

○【資料１０】他地域における協議会のまとめの状況について・・・・・・・・・・・ Ｐ２４

○【別冊資料１】令和６年度鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果
（対象：生徒）

○【別冊資料２】令和６年度鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果
（対象：保護者）

令和６年度　鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	区　分	所　　属　　等	名　前
1	学識経験者	三重大学教育学部　准教授	市川（いちかわ）　俊輔（しゅんすけ）
2	地域有識者	鈴鹿商工会議所　専務理事	内藤（ないとう）　俊樹（としき）
3		亀山商工会議所　専務理事	山本（やまもと）　安夫（やすお）
4	市町教育委員会 教育長	鈴鹿市教育委員会　教育長	廣田（ひろた）　隆延（たかのぶ）
5		亀山市教育委員会　教育長	中原（なかはら）　博（ひろし）
6	県立高等学校長代表	県立飯野高等学校　校長	今髙（いまたか）　成則（じげのり）
7	小中学校長代表	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校　校長	羽山（はやま）　哉美（かなみ）
8	小中学校ＰＴＡ代表	鈴鹿市ＰＴＡ連合会　代表 （鈴鹿市立桜島小ＰＴＡ　会長）	村田（むらた）　多恵子（たえこ）
9		亀山市ＰＴＡ連合会　代表 （亀山市立川崎小ＰＴＡ　会長）	佐久間（さくま）　淳司（あつし）
10	高等学校ＰＴＡ代表	高等学校ＰＴＡ連合会　代表 （県立亀山高等学校ＰＴＡ 会長）	藤井（ふじい）　千恵子（ちえこ）
11	小中学校教職員代表	鈴鹿市立庄内小学校　教諭	谷口（たにぐち）　哲也（てつや）
12	高等学校教職員代表	県立神戸高等学校　教諭	和田（わだ）　馨（かおる）

資料１

令和６年度第１回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会の概要

１　日時　　令和６年７月２９日（月）１９時００分から２１時００分まで
２　場所　　三重県鈴鹿庁舎　４６会議室
３　概要

「県立高等学校活性化計画」や、令和５年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する１５年先までの鈴鹿亀山地域の中学校卒業者の減少の状況をふまえ、当地域において１５年先に求められる（実現したい）学びや、高校のあり方について協議しました。

また、地域の中学生や保護者を対象としたアンケート調査の質問内容や実施方法等について検討しました。

主な意見は次のとおりです。

≪鈴鹿亀山地域で実現したい学びや高校のあり方について≫

○　当地域の県立高校の学びの選択肢がこのままであれば、１５年先までにかなりの学級数を減らさざるを得ない。しかし、四日市地域や津地域の専門高校へ一定数の生徒が流出していることをふまえると、鈴鹿市内の高校に工業、商業、農業などの職業系の専門学科を設置することで、学級数の減少を抑えることができるのではないか。市内の事業所からも人手不足であるという声が大きくなっており、ぜひ設置を検討してほしい。

○　大学進学を考えている中学生の多くが、四日市地域や津地域の普通科高校へ進学しており、以前と比べて神戸高校の魅力が低下しているように感じる。当地域の子どもたちを地域に残していくための取組をするべきではないか。例えば、当地域に公立の中高一貫教育校を設置するのも、ニーズがあれば１つの選択肢になりうるのではないか。

○　部活動が充実していることは、高校を選択する際の大きな魅力の１つとなっている。全ての高校が小規模化されて、十分な部活動ができなくなってしまわないよう、部活動の活性化という視点も大切にしてほしい。

○　工業高校を設置するには、施設整備のために多額の予算が必要となる。少子化が進む中にあっては、既存の学科・コースの学びに予算を投入し、時代のニーズに沿った専門性の高い学びを充実させるほうがよいのではないか。

○　当地域に専門高校をつくったとしても、他地域の実績のある専門高校を上回る魅力がなければ、近いというだけで生徒は選んでくれないだろう。

○　人の役に立ちたい、地域の力になりたいと思っている地元志向が強い中学生は多い。四日市地域や津地域へ進学する生徒も一定数いるものの、当地域の各県立高校のニーズは高いと感じている。

○　令和２年度に就学支援金制度が拡充されたことにより、県立高校と私立高校の経済的負担の差が小さくなったため、生徒は学校の特色をより重視して高校を選ぶようになっている。県立高校の学びと配置のあり方については、私学の状況もふまえて総合的に考える必要がある。

○　それぞれの学校が特色化・魅力化に取り組み、情報発信に努めているが、即効性のある取組もあれば徐々に浸透する取組もある。今後も学校関係者評価委員会等の意見を聞きながら、学校の活性化に取り組み続ける必要がある。

≪アンケートの内容や実施方法について≫

○　こども大綱がめざす「こどもまんなか社会」の視点から、子どもたちが新たな発想でアンケートの設問を考えてもよかったのではないか。

○　地域の中学生のニーズを把握するために、「鈴鹿亀山地域にどんな高校があれば通いたいと思うか」という設問を加えてはどうか。

資料２

鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果について

１　生徒を対象としたアンケート結果

（１）高校選びで重視すること（問６）

「学校の雰囲気・イメージ」（53.1%）、「通学のしやすさ・距離」（50.5%）に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」（47.6%）、「学びたい学科やコースがある」（39.1%）、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる」（38.8%）の順となっている。

（２）高校に期待する教育（問８）

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」（52.0%）、「基本的な知識が身につく教育」（48.0%）をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」（46.9%）、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」（42.0%）を期待している。

（３）希望する学級数について（問 10）

多い順に「４～６学級」（47.9%）、「２～３学級」（32.3%）、「１学級」（13.4%）、続いて「７学級以上」（6.4%）となっている。

（４）通学時間について（問 11）

多い順に「60 分以内まで」（54.0%）、「30 分以内まで」（22.5%）、「90 分以内まで」（16.8%）、「120 分以内まで」（3.5%）、「121 分以上」（3.2%）となっている。

（５）将来生活する場所について（問 12）

「まだ決まっていない、わからない」（40.4%）が最も多く、続いて、「県外」（20.0%）、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」（13.5%）、「地元」（12.3%）となっている。

２ 保護者を対象としたアンケート結果

（１）高校選びで重視すること（問６）

「学びたい学科やコースがあること」（69.6%）に続いて、「通学のしやすさ・距離」（69.3%）、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」（58.7%）に続いて、「学校の雰囲気・イメージ」（41.8%）となっている。

（２）高校に期待する教育（問８）

「自ら学び続ける力が身につく教育」と「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」（58.5%）をはじめ、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」（50.4%）、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」（49.6%）を期待している。

（３）学級の規模について（問 10）

多い順に「４～６学級」（53.7%）、「２～３学級」（28.2%）、「１学級」（11.3%）、続いて「７学級以上」（6.8%）となっている。

（４）通学時間について（問 11）

多い順に「60 分以内まで」（70.7%）、「30 分以内まで」（19.2%）、「90 分以内まで」（9.0%）、「120 分以内まで」（1.1%）、「121 分以上」（0.1%）となっている。

（５）将来生活する場所について（問 12）

「本人の希望次第」（72.4%）が最も多く、続いて、「地元」（10.3%）、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」（5.0%）、「特に考えはない」（3.3%）となっている。

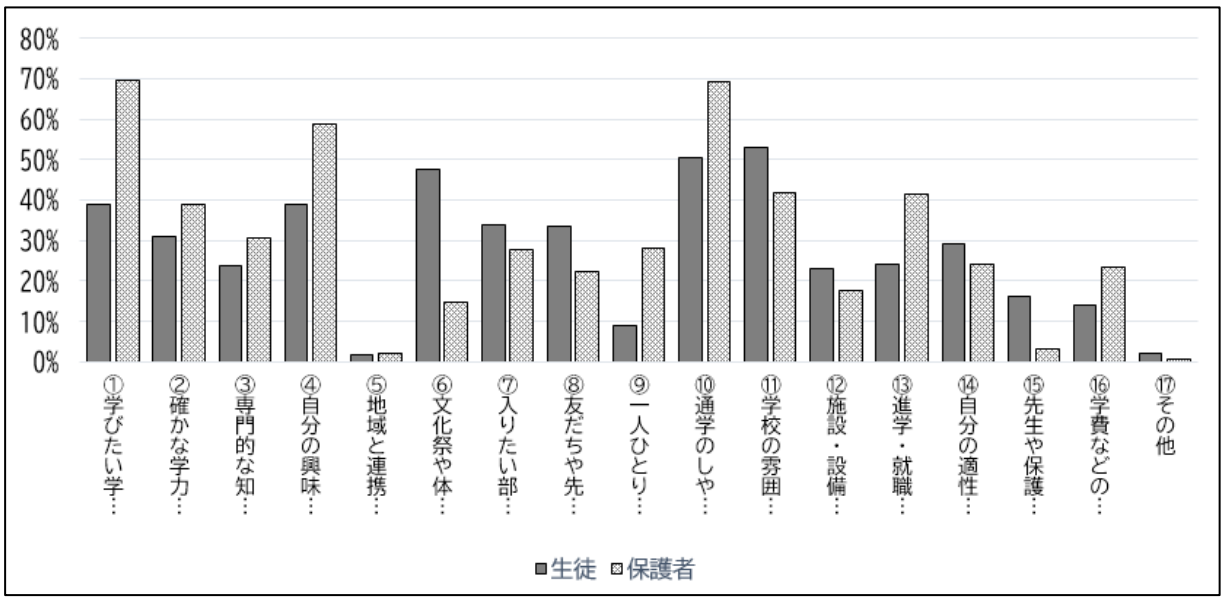
（６）今後の鈴鹿亀山地域の県立高校のあり方について

今後の鈴鹿亀山地域の高校については、「一定の統合は避けられない」（71.8%）が最も多く、続いて「統合は避けるべき」（22.3%）、「積極的に統合を進めるべき」（5.9%）となっている。

３　生徒と保護者の回答の比較

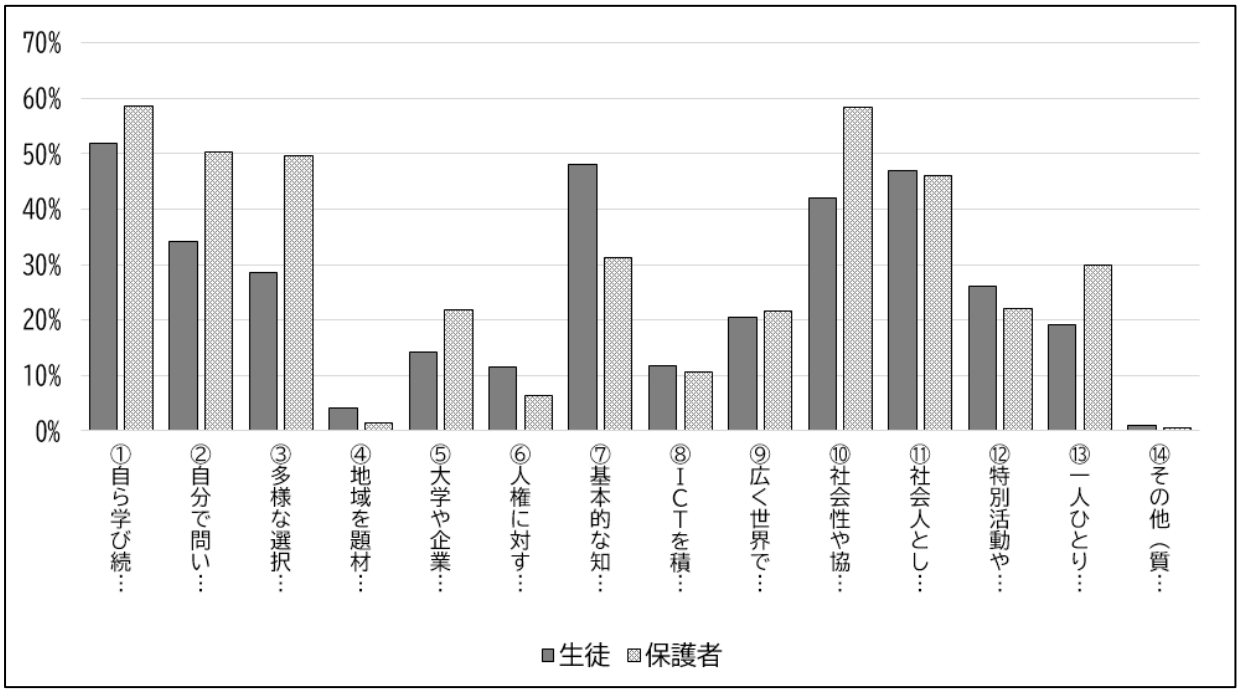
（１）高校選びに重視すること（回答は６つ以内、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目＼対象	生徒（1,730 人）		保護者（1,960 人）	
①　学びたい学科やコースがある	④ 676	39.1%	①1,366	69.6%
②　確かな学力を身につける授業が充実している	⑧ 539	31.2%	⑥ 764	38.9%
③　専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑪ 411	23.8%	⑦ 603	30.7%
④　自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑤ 671	38.8%	③1,151	58.7%
⑤　地域と連携した活動が充実している	⑰ 29	1.7%	⑯ 43	2.2%
⑥　文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③ 824	47.6%	⑭ 288	14.7%
⑦　入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑥ 586	33.9%	⑨ 541	27.6%
⑧　友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑦ 581	33.6%	⑫ 437	22.3%
⑨　一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮ 153	8.8%	⑧ 555	28.3%
⑩　通学のしやすさ・距離	② 874	50.5%	②1,359	69.3%
⑪　学校の雰囲気・イメージ	① 919	53.1%	④ 821	41.8%
⑫　施設・設備の充実	⑫ 400	23.1%	⑬ 349	17.8%
⑬　進学・就職の実績	⑩ 419	24.2%	⑤ 815	41.5%
⑭　自分の適性や能力	⑨ 503	29.1%	⑩ 475	24.2%
⑮　先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬ 278	16.1%	⑮ 61	3.1%
⑯　学費などの経費負担	⑭ 244	14.1%	⑪ 457	23.3%
⑰　その他（質問７の自由記述へ）	⑯ 35	2.0%	⑰ 11	0.6%



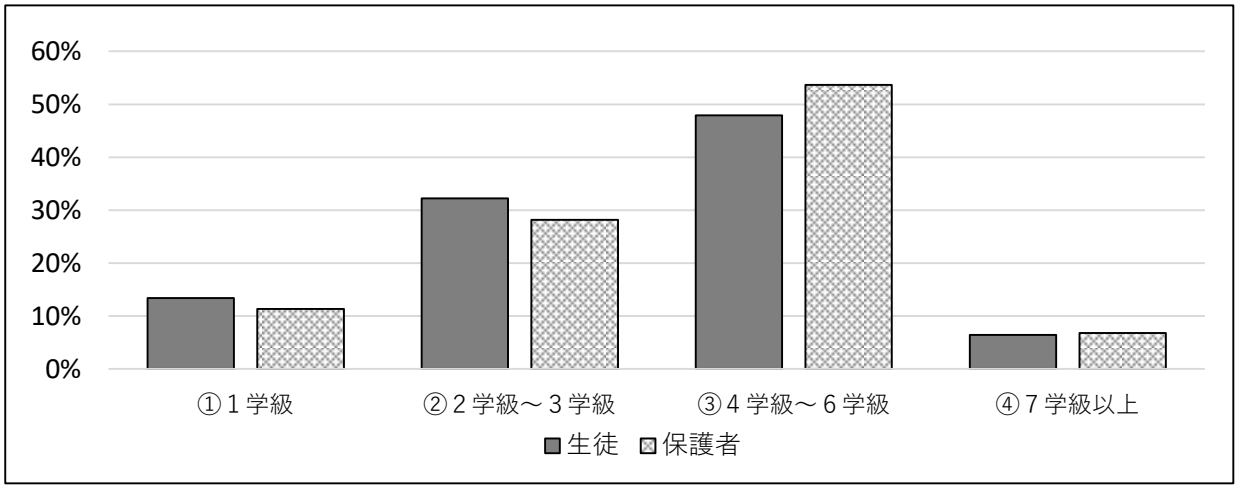
（２）高校に期待する教育（回答は５つ以内、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目 ＼ 対象	生徒（1,730 人）		保護者（1,962 人）	
① 自ら学び続ける力が身につく教育	① 899	52.0%	①1,148	58.5%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤ 590	34.1%	③ 988	50.4%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑥ 496	28.7%	④ 974	49.6%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑬ 72	4.2%	⑬ 29	1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩ 247	14.3%	⑨ 428	21.8%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育	⑫ 199	11.5%	⑫ 126	6.4%
⑦ 基本的な知識が身につく教育	② 831	48.0%	⑥ 615	31.3%
⑧ ＩＣＴを積極的に活用する教育	⑪ 202	11.7%	⑪ 210	10.7%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧ 354	20.5%	⑩ 424	21.6%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④ 727	42.0%	②1,147	58.5%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③ 811	46.9%	⑤ 905	46.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑦ 453	26.2%	⑧ 431	22.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨ 332	19.2%	⑦ 586	29.9%
⑭ その他（質問９の自由記述へ）	⑭ 19	1.1%	⑭ 11	0.6%



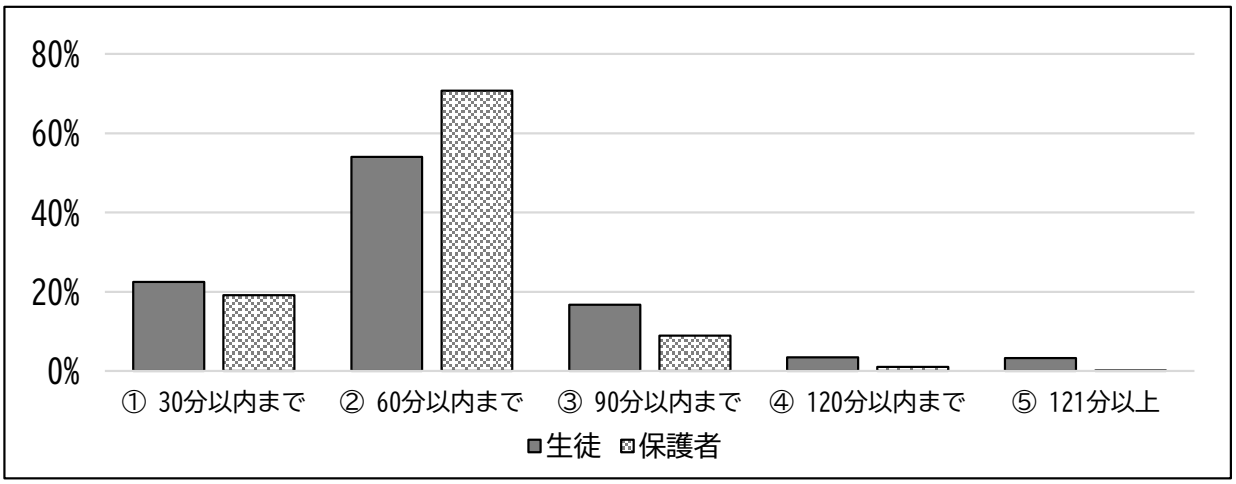
（３） １学年当たりの学級規模（回答は１つ、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目＼対象	生徒（1,730 人）		保護者（1,962 人）	
① １学級（40 人）	③ 232	13.4%	③ 222	11.3%
② ２学級～３学級（80～120 人）	② 558	32.3%	② 553	28.2%
③ ４学級～６学級（160～240 人）	① 829	47.9%	①1,053	53.7%
④ ７学級以上（280 人～）	④ 111	6.4%	④ 134	6.8%



（４）進学したい高校までの通学時間（回答は１つ、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目＼対象	生徒（1,730 人）		保護者（1,962 人）	
① ３０分以内まで	② 389	22.5%	② 376	19.2%
② ６０分以内まで	① 935	54.0%	①1,387	70.7%
③ ９０分以内まで	③ 290	16.8%	③ 176	9.0%
④ １２０分以内まで	④ 60	3.5%	④ 21	1.1%
⑤ １２１分以上	⑤ 56	3.2%	⑤ 2	0.1%



４　生徒と保護者の回答の比較より

（１）「高校選びで重視すること（17 個の選択肢から６つ以内で選択）」について

（ア）生徒、保護者の両者で各上位６つに選択された項目のうち、共通するもの

①学びたい学科やコースがある

生徒４位　676 人（39.1%）、保護者１位　1,366 人（69.6%）

④自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒５位　671 人（38.8%）、保護者３位　1,151 人（58.7%）

⑩通学のしやすさ・距離

生徒２位　874 人（50.5%）、保護者２位　1,359 人（69.3%）

⑪学校の雰囲気・イメージ

生徒１位　919 人（53.1%）、保護者４位　821 人（41.8%）

（イ）生徒、保護者のどちらか一方で上位６つに選択された項目

②確かな学力を身につける授業が充実している

生徒８位　539 人（31.2%）、保護者６位　764 人（38.9%）

⑥文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒３位　824 人（47.6%）、保護者 14 位　288 人（14.7%）

⑦入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒６位　586 人（33.9%）、保護者９位　541 人（27.6%）

⑬進学・就職の実績

生徒 10 位　419 人（24.2%）、保護者５位　815 人（41.5%）

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位２つ（その他を除く）に選択された項目

⑤地域と連携した活動が充実している

生徒 17 位　29 人（1.7%）、保護者 16 位　43 人（2.2%）

⑨一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒 15 位　153 人（8.8%）、保護者８位　555 人（28.3%）

⑮先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒 13 位　278 人（16.1%）、保護者 15 位　61 人（3.1%）

（２）「高校に期待する教育（14 個の選択肢から５つ以内で選択）」について

（ア）生徒、保護者の両者で各上位５つに選択された項目のうち、共通するもの

①自ら学び続ける力が身につく教育

生徒１位　899 人（52.0%）、保護者１位　1,148 人（58.5%）

②自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒５位　590 人（34.1%）、保護者３位　988 人（50.4%）

⑩社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒４位　727 人（42.0%）、保護者２位　1,147 人（58.5%）

⑪社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒３位　811 人（46.9%）、保護者５位　905 人（46.1%）

（イ）生徒、保護者のどちらか一方で上位５つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒６位　496 人（28.7%）、保護者４位　974 人（49.6%）

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒２位　831 人（48.0%）、保護者６位　615 人（31.3%）

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位２つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒 13 位　72 人(4.2%)、保護者 13 位　29 人(1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒 12 位　199 人(11.5%)、保護者 12 位　126 人(6.4%)

（３）「１学年あたりの学級規模（１つ選択)」について

生徒、保護者とも「４学級～６学級」(生徒 47.9%、保護者 53.7%）と最も多く、次いで「２学級～３学級」(生徒 32.3%、保護者 28.2%)、「１学級」(生徒 13.4%、保護者 11.3%)、「７学級以上」(生徒 6.4%、保護者 6.8%）となっている。

（４）「進学したい高校までの通学時間（１つ選択)」について

生徒、保護者とも「60 分以内まで」(生徒 54.0%、保護者 70.7%)、「30 分以内まで」（生徒 22.5%、保護者 19.2%）と続き、さらに「90 分以内まで」(生徒 16.8%、保護者 9.0%)、「120 分以内まで」(生徒 3.5%、保護者 1.1%）となっている。

資料３

鈴鹿亀山地域中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）

（令和6年度第1回協議会【資料6】再掲）

令和6年5月1日　教育政策課調べ

		R 3.3 卒業	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 現中3	R 8.3 現中２	R 9.3 現中１	R 10.3 現小６	R 11.3 現小５	R 12.3 現小４	R 13.3 現小３	R 14.3 現小２	R 15.3 現小１
鈴鹿市	卒業者数	1,839	1,988	1,798	1,973	1,809	1,774	1,773	1,659	1,683	1,653	1,640	1,484	1,406
	前年度対比		149	-190	175	-164	-35	-1	-114	24	-30	-13	-156	-78
	R6.3対比					-164	-199	-200	-314	-290	-320	-333	-489	-567
亀山市	卒業者数	420	421	423	440	458	481	445	458	427	443	426	404	377
	前年度対比		1	2	17	18	23	-36	13	-31	16	-17	-22	-27
	R6.3対比					18	41	5	18	-13	3	-14	-36	-63
小計	卒業者数	2,259	2,409	2,221	2,413	2,267	2,255	2,218	2,117	2,110	2,096	2,066	1,888	1,783
	前年度対比		150	-188	192	-146	-12	-37	-101	-7	-14	-30	-178	-105
	R6.3対比					-146	-158	-195	-296	-303	-317	-347	-525	-630
県内合計	卒業者数	15,777	16,244	16,055	15,891	15,712	15,488	15,241	14,769	14,404	14,000	14,049	13,442	12,792
	前年度対比		467	-189	-164	-179	-224	-247	-472	-365	-404	49	-607	-650
	R6.3対比					-179	-403	-650	-1,122	-1,487	-1,891	-1,842	-2,449	-3,099

鈴鹿亀山地域高校（県立全日）	学級数（募集）	30	31	29	31	28
	欠員	30	36	19	2	
県内（県立全日）	学級数（募集）	271	274	268	263	258
	欠員	325	324	334	224	

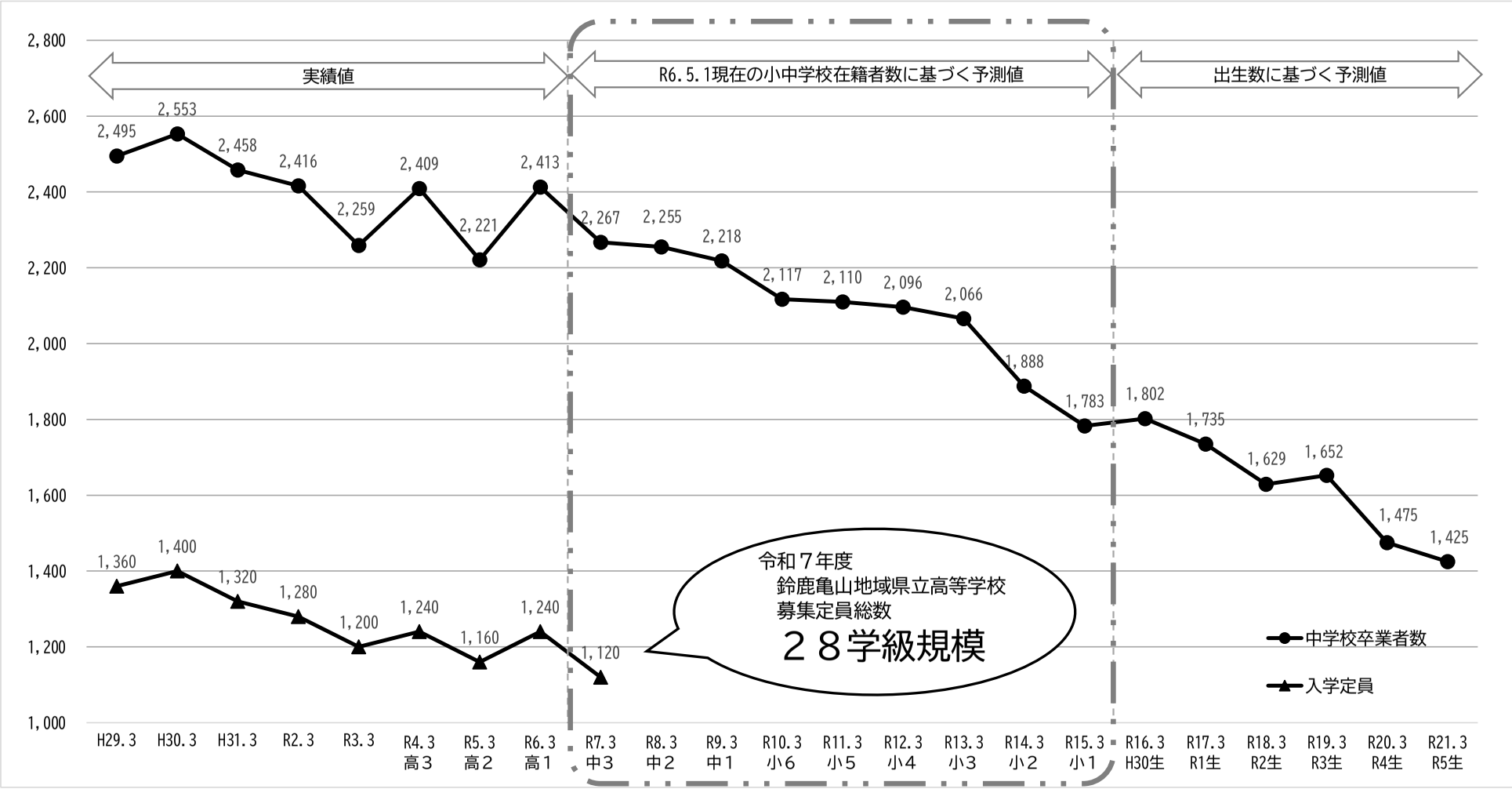
※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

【私立高校】

鈴鹿	募集	470	480	475	475	470
	入学者数	456	435	445	500	

資料４

鈴鹿亀山地域の中学校卒業者数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



【鈴鹿亀山地域の出生数】

	H27年度生 現小３	H28年度生 現小２	H29年度生 現小１	H30年度生 5～6歳	R元年度生 4～5歳	R2年度生 3～4歳	R3年度生 2～3歳	R4年度生 1～2歳	R5年度生 0～1歳
鈴鹿市	1,709	1,643	1,545	1,507	1,508	1,376	1,400	1,306	1,211
亀山市	445	399	371	411	343	359	360	269	307
合計	2,154	2,042	1,916	1,918	1,851	1,735	1,760	1,575	1,518
予測値	2,066	1,888	1,783	1,802	1,735	1,629	1,652	1,475	1,425

（令和６年度第１回協議会【資料８】一部追記）

資料５①

鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（Ｒ７年度）

１．全日制課程

県立	・神戸高等学校（鈴鹿市）	普通科(200)、理数科(80)
	・飯野高等学校（鈴鹿市）	応用デザイン科(80)、 英語コミュニケーション科(80)
	・白子高等学校（鈴鹿市）	普通科(160)、文化教養(吹奏楽)ｺｰｽ（40)、 生活創造科(40)
	・石薬師高等学校（鈴鹿市）	普通科(80)
	・稲生高等学校（鈴鹿市）	普通科(120)、体育科(40)
	・亀山高等学校（亀山市）	普通科(80)、システムメディア科(80)、 総合生活科(40)
私立	・鈴鹿高等学校（鈴鹿市） （鈴鹿中等教育学校後期課程含む）	普通科(475) 特進ｺｰｽ・探究ｺｰｽ・総合ｺｰｽ・６年制

２．定時制課程

県立	・飯野高等学校（鈴鹿市）	普通科(80)

３．通信制課程

私立	・徳風高等学校（亀山市）	普通科(240)　※技能連携制度あり 総合ｺｰｽ・ﾄﾞｯｸﾞｹｱｺｰｽ・ﾊﾟｿｺﾝｺｰｽ 日本語ｺｰｽ・土日ｺｰｽ・平日ｻﾎﾟｰﾄｺｰｽ

４．高等専門学校

国立	・鈴鹿工業高等専門学校（鈴鹿市）	機械工学科（40)、電気電子工学科（40)、 電子情報工学科（40)、生物応用化学科（40)、 材料工学科（40)

○　課程

・全日制：通常の時間帯において授業を行う課程
・定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
・通信制：通信による教育を行う課程

○　学科

・普通科：普通教育を主とする学科
※普通科、普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科（学際領域に関する学科、地域社会に関する学科など）

・専門学科：専門教育を主とする学科
【職業系】農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、情報科、福祉科など職業教育を主とする学科
【普通系】理数科、体育科、音楽科、美術科、外国語科、国際関係科など職業系以外の専門教育を施す学科

・総合学科：普通教育及び専門教育を選択履修の旨として総合的に施す学科

○　技能連携制度

通信制または定時制高校に在籍する生徒が、指定された技能教育施設で教育を受けている場合、そこでの学習を在籍校における教科の一部の履修とみなす制度

○　高等専門学校

実践的･創造的技術者を養成することを目的とした５年一貫教育（商船学科は５年６か月）の高等教育機関であり、理論だけではなく実験・実習を重視した専門教育が行われている

鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（令和7年度）

（令和6年度第1回協議会【資料8-②】再掲）

資料５-②

		学校名	大学科※	入学定員		1	2	3	4	5	6	7	8
全日制課程	県立	神戸	普通科	280	1,120	【普通科】 ※2年生から文系・理系の類型に分かれる					【理数科】		
		飯野	普通科	160		【応用デザイン科】 ビジュアルデザインコース 服飾デザインコース 美術コース		【英語コミュニケーション科】 A（英語基礎力強化） B（ハイレベルな英語活動）					
		白子	普通科 専門学科	240		【普通科】 進学コース 教養コース				【文化教養科】 （吹奏楽）コース	【生活創造科】 食彩コース 服飾コース		
		石薬師	普通科	80		【普通科】 スタンダードコース アカデミックコース							
		稲生	普通科	160		【普通科】 ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽｺｰｽ・食物調理ｺｰｽ・情報ｺｰｽ 自動車工業ｺｰｽ・ﾋﾞｼﾞﾈｽｺｰｽ・介護福祉ｺｰｽ			【体育科】				
		亀山	普通科 専門学科	200		【普通科】 ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ系列 ｾﾚｸｼｮﾝ系列		【システムメディア科】 ITｼｽﾃﾑ系列 ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ系列 情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ系列		【総合生活科】 食物文化系列 人間福祉系列 幼児教育系列			
	私立	鈴鹿	普通科	470	470	普通科（特進コース・探究コース・総合コース） ※募集定員には中等教育学校後期課程（6年制）も含む							

全２８学級
普通科※　２４
専門学科　　４
（家庭２）
（情報２）
総合学科　　０

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

○定時制課程	県立	飯野	80	普通科
○通信制課程	私立	徳風	240	普通科（総合コース、ドッグケアコース、パソコンコース、日本語コース、土日コース、平日サポートコース）　※技能連携あり
○高等専門学校	国立	鈴鹿工業高専	200	機械工学科（40）、電気電子工学科（40）、電子情報工学科（40）、生物応用化学科（40）、材料工学科（40）

【参考】四日市地域の高等学校の学科・コースについて（令和7年度）

（令和6年度第1回協議会【資料8-③】再掲）

資料５-③

		学校名	大学科※	入学定員		1	2	3	4	5	6	7	8
全日制課程	県立	四日市	普通科	320	2,520	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース	国際科学コース
		四日市南	普通科	320		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	数理科学コース	数理科学コース
		四日市西	普通科	200		普通科	普通科	普通科	比較文化・歴史コース	数理情報コース			
		朝明	普通科 専門学科	160		普通科	普通科	普通科	ふくし科				
		四日市四郷	普通科	160		普通科	普通科	普通科	スポーツ科学コース				
		四日市工業	専門学科	280		機械科	電子機械科	電気科	電子工学科	建築科	物質工学科	自動車科	
		四日市中央工業	専門学科	200		機械科	電気科	化学工学科	都市工学科	設備システム科			
		四日市商業	専門学科	240		商業科	商業科	商業科	商業科	商業科	情報マネジメント科		
		四日市農芸	専門学科	200		農業科学科	食品科学科	環境造園科	生活文化科	生活文化科			
		菰野	普通科	160		普通科	普通科	普通科	普通科				
		川越	普通科	280		探究科	探究科	探究科	探究科	探究科	国際探究科	国際探究科	
	私立	暁	普通科	430	860	普通科（Ⅰ類進学コース、Ⅱ類進学コース、Ⅱ類英進コース、6年制）							
		四日市メリノール学院	普通科	140		普通科							
		海星	普通科	290		普通科（国際数理コース、進学特別コース、進学コース、6年制）、ダブルディプロマ科							

全６３学級
普通科※　３９
専門学科　２４
（工業１２）
（商業　６）
（農業　３）
（家庭　２）
（福祉　１）
総合学科　０

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

○定時制課程	県立	四日市工業	80	機械交通工学科（40）、住システム工学科（40）
	県立	北星	130	普通科（昼間部）（40）、情報ビジネス科（昼間部）（40）、普通科（夜間部）（40）、秋期入学（3学科共通）（10）
○通信制課程	県立	北星	300	普通科（240）、秋期入学（普通科）（60）
	私立	四日市メリノール学院	60	普通科
	私立	大橋学園	255	普通科（全日コース、医療コース、土曜コース）　※技能連携あり

【参考】津地域の高等学校の学科・コースについて（令和7年度）

（令和6年度第1回協議会【資料8-④】再掲）

資料５-④

		学校名	大学科※	入学定員		1	2	3	4	5	6	7	8
全日制課程	県立	津	普通科	320	1,880	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
		津西	普通科	320		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学科	国際科学科
		津商業	専門学科	240		ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	情報システム科		
		津東	普通科	240		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科		
		津工業	専門学科	240		機械科	機械科	機械科	電気科	電子科	建設工学科		
		久居	普通科	200		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
		久居農林	専門学科	240		生物生産科	生物資源科	環境情報科	環境土木科	生活デザイン科	生活デザイン科		
		白山	普通科 専門学科	80		普通科	情報 コミュニケーション科						
	私立	高田	普通科	560	685	普通科（Ⅱ類特別選抜クラス、Ⅱ類進学クラス、Ⅰ類進学クラス、６年制）							
		ｾﾝﾄﾖｾﾞﾌ女子学園	普通科	125		普通科（スーパーアドバンスコース、アドバンスコース）							

全４７学級
普通科※　２８
専門学科　１９
（工業６）
（商業７）
（農業４）
（家庭２）
総合学科　０

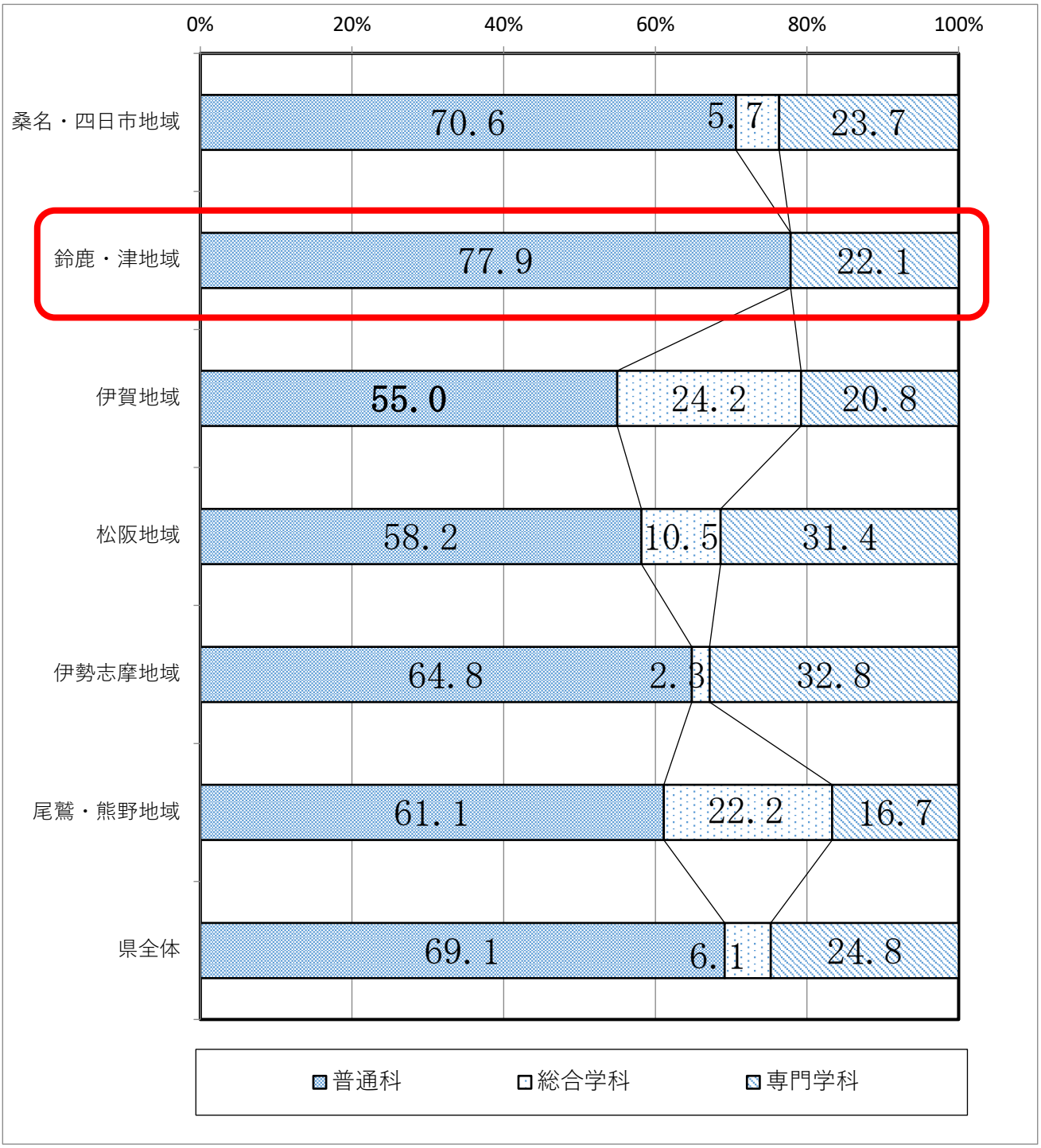
※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

○定時制課程　県立　みえ夢学園　120　総合学科（午前の部）（40）、総合学科（午後の部）（40）、総合学科（夜間部）（40）
○通信制課程　私立　一志学園　40　普通科（全日型コース、土曜コース、フレックスコース）

各地域の学科別募集定員の割合（県立私立全日制）

資料６

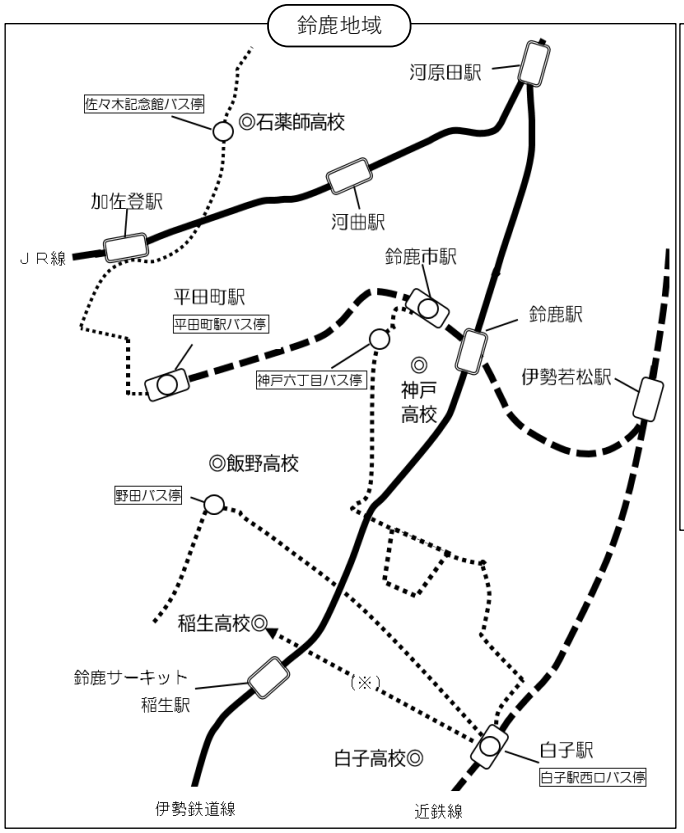
※　令和7年度県立および私立高校合計

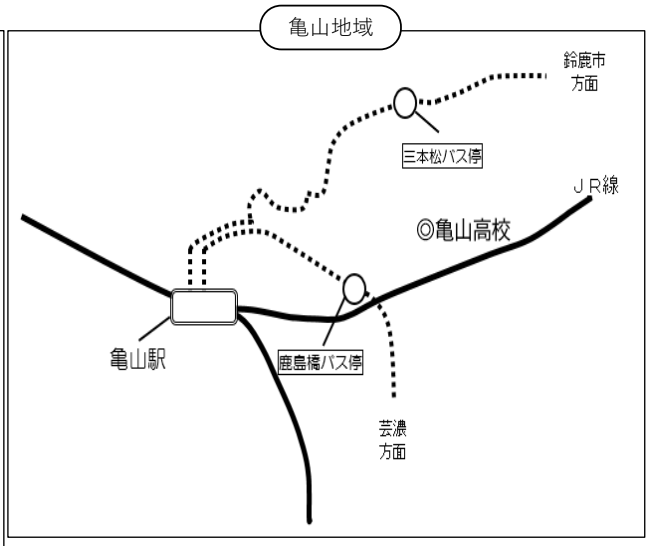


鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等

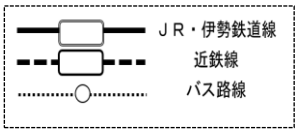
資料７

（1）通学における主な路線図





（※）：平常授業日に
通学バスが運行
◎08:16　稲生高校行き
◎16:00　白子駅西行き



（2）通学方法別生徒数と割合

R6．5．1　学校基本調査より

通学方法＼学校名		神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計
徒歩のみ		16	38	18	11	3	39	125
		1.8%	8.3%	2.5%	3.4%	0.6%	6.6%	3.6%
自転車のみ		462	123	256	189	334	294	1,658
		50.7%	26.8%	35.4%	58.3%	71.5%	50.0%	47.7%
単車のみ		7	0	0	0	0	0	7
		0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
JRのみ		16	11	0	39	38	70	174
		1.8%	2.4%	0.0%	12%	8.1%	12%	5.0%
私鉄のみ		211	112	213	0	0	0	536
		23.1%	24.4%	29.5%	0%	0.0%	0%	15.4%
バスのみ		32	24	6	16	1	38	117
		3.5%	5.2%	0.8%	4.9%	0.2%	6.5%	3.4%
JRと	私鉄	11	8	4	2	27	12	64
		1.2%	2%	1%	1%	5.8%	2%	1.8%
	バス	0	16	0	2	3	9	30
		0.0%	3.5%	0.0%	0.6%	0.6%	1.5%	0.9%
	自転車	67	9	0	30	10	94	210
		7.3%	2.0%	0.0%	9.3%	2.1%	16%	6.0%
私鉄と	バス	12	23	12	8	5	1	61
		1.3%	5.0%	1.7%	2.5%	1.1%	0%	1.8%
	自転車	68	53	190	11	30	0	352
		7.5%	11.5%	26.3%	3%	6.4%	0%	10.1%
バスと	単車	1	0	0	0	0	0	1
		0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	4	10	2	5	4	13	38
		0.4%	2.2%	0.3%	1.5%	0.9%	2%	1.1%
その他（車送迎、3つ以上の交通機関等）		5	32	22	11	12	18	100
		0.5%	7.0%	3.0%	3.4%	2.6%	3%	2.9%
合計		912	459	723	324	467	588	3,473

(3)通学費用別生徒数と割合

R6. 5. 1 学校基本調査より

費用＼学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計	積み上げ
不要	434	166	278	210	338	349	1,775	1,775
	47.6%	36.2%	38.5%	64.8%	72.4%	59.4%	51.1%	51.1%
3,000円以内	71	14	29	20	17	14	165	1,940
	7.8%	3.1%	4.0%	6.2%	3.6%	2.4%	4.8%	55.9%
5,000円以内	237	62	256	39	21	98	713	2,653
	26.0%	13.5%	35.4%	12.0%	4.5%	16.7%	20.5%	76.4%
7,000円以内	91	123	115	24	31	55	439	3,092
	10.0%	26.8%	15.9%	7.4%	6.6%	9.4%	12.6%	89.0%
9,000円以内	35	14	18	5	16	22	110	3,202
	3.8%	3.1%	2.5%	1.5%	3.4%	3.7%	3.2%	92.2%
11,000円以内	25	25	11	10	10	26	107	3,309
	2.7%	5.4%	1.5%	3.1%	2.1%	4.4%	3.1%	95.3%
13,000円以内	10	14	1	9	12	9	55	3,364
	1.1%	3.1%	0.1%	2.8%	2.6%	1.5%	1.6%	96.9%
15,000円以内	6	14	4	3	8	10	45	3,409
	0.7%	3.1%	0.6%	0.9%	1.7%	1.7%	1.3%	98.2%
15,001円以上	3	27	11	4	14	5	64	3,473
	0.3%	5.9%	1.5%	1.2%	3.0%	0.9%	1.8%	100.0%
合計	912	459	723	324	467	588	3,473	3,473

※通学費用は1か月あたりの費用

(4)通学時間別生徒数と割合

R6. 5. 1 学校基本調査より

時間＼学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計	積み上げ
15分以内	143	37	143	31	96	80	530	530
	15.7%	8.1%	19.8%	9.6%	20.6%	13.6%	15.3%	15.3%
30分以内	331	93	259	94	181	203	1,161	1,691
	36.3%	20.3%	35.8%	29.0%	38.8%	34.5%	33.4%	48.7%
45分以内	229	59	151	94	93	143	769	2,460
	25.1%	12.9%	20.9%	29.0%	19.9%	24.3%	22.1%	70.8%
60分以内	151	81	123	71	55	126	607	3,067
	16.6%	17.6%	17.0%	21.9%	11.8%	21.4%	17.5%	88.3%
90分以内	55	121	41	30	30	32	309	3,376
	6.0%	26.4%	5.7%	9.3%	6.4%	5.4%	8.9%	97.2%
120分以内	2	56	6	3	8	4	79	3,455
	0.2%	12.2%	0.8%	0.9%	1.7%	0.7%	2.3%	99.5%
121分以上	1	12	0	1	4	0	18	3,473
	0.1%	3%	0.0%	0.3%	0.9%	0%	0.5%	100.0%
合計	912	459	723	324	467	588	3,473	3,473

※通学時間は片道の所要時間

(5)自宅外通学生徒数

R6. 5. 1 学校基本調査より

種別＼学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計
下宿	0	2	8	2	0	0	12
寄宿舎	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	2	8	2	0	0	12

資料８

令和 21 年度までの鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の総学級数と当協議会の協議について

令和７年度（現中３）	令和９年度（現中１）	令和 10 年度（現小６）	令和 15 年度（現小１）	令和 21 年度
地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数	地域の中学校卒業予定者数
2,267 人（前年度比▲146）	2,218 人	2,117 人	1,783 人	1,425 人
募集定員 1,120 人	（R7 年度比 ▲49）	（R7 年度比 ▲150）	（R7 年度比 ▲484）	（R7 年度比 ▲842）
28 学級	27 学級程度	25 学級程度	18～20 学級程度	13～15 学級程度

神戸高校	（普７）
飯野高校	（普４）
白子高校	（普５・専１）
石薬師高校	（普２）
稲生高校	（普４）
亀山高校	（普２・専３）

鈴鹿亀山地域の県立高校（全日制）

鈴鹿亀山地域の県立高校（全日制）

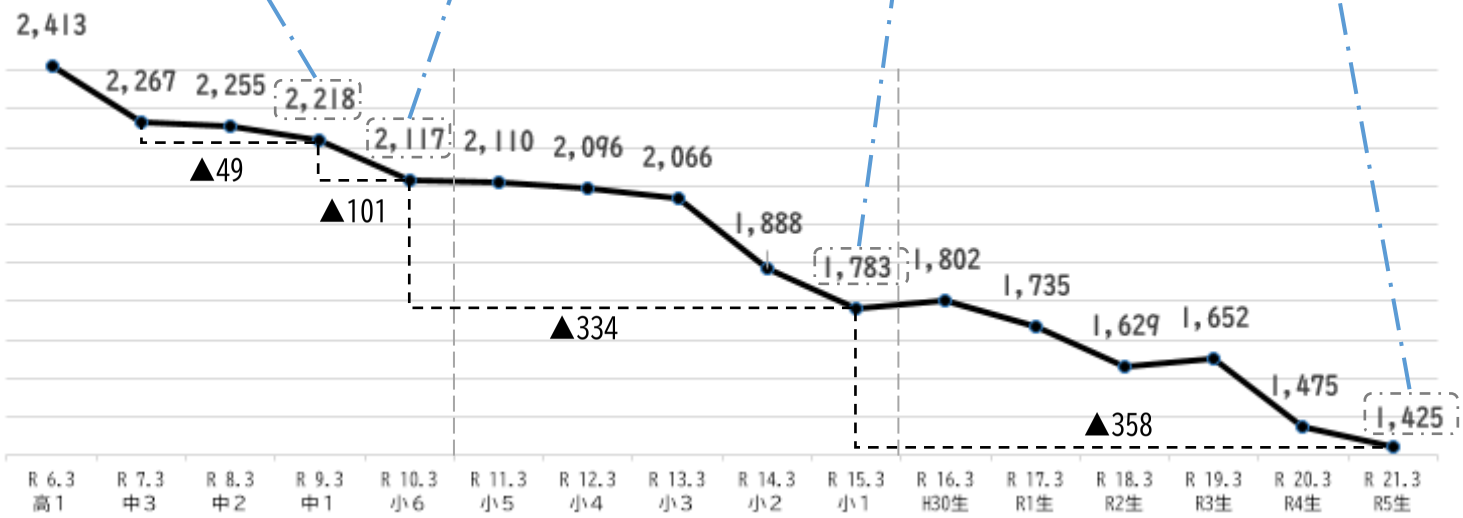
鈴鹿亀山地域の県立高校（全日制）

鈴鹿亀山地域の県立高校（全日制）

Ｒ７：３学級減 → ２年：１学級減 → １年：２学級減 → ５年：５～７学級減 → ６年：５学級程度減

学級減への対応方針
決定時期（めど）

令和 10 年度分：令和７年度
令和 14 年度分：令和 11 年度



資料９

令和５～６年度の協議における主な意見

令和５年度第１回および令和６年度第１回の協議会において出された意見に、それ以降の協議も加えながら、当地域において 15 年先に求められる（実現したい）学びや、高校のあり方について整理し、まとめていきます。

また、令和 10 年度までに想定される学級減への具体的な対応についての協議も進めていくこととします。

１　これまでの主な意見（ ◇：R５①　〇：R６① ）

（１）鈴鹿亀山地域の学びと配置について

◇　高校の特色化・魅力化も大切だが、高校を選択するにあたっては、中学校までの段階で将来どのような職業に就きたいかを大学進学や資格取得等の観点から考えておくことが大切である。

◇　普通科のコースでは、専門教科の授業や実習が少ないため、専門学科と比較するとどうしても知識や技能に差が生じてしまう。また、当地域の事業所からは、おそらくこれまでに就職実績がある事業所や地元の事業所が優先されるためか、四日市市や津市の工業高校、商業高校に求人を出しても、生徒の応募がなく、人手不足であると聞いている。ニーズがあるにもかかわらず専門学科が設置されないのは、予算上の理由からなのか。

⇒（事務局）予算上の課題もあるが、本県の職業系専門学科の割合は全国的に見ても高いため、中学校卒業者数が減少する中で、新たに専門学科を設置することは難しい。こうしたこともあり学科の区分にとらわれず、各学校が地元企業と連携し、地域の産業の魅力を知る機会を増やしていくことが大切であると考えている。

◇　少子化の中では、新たな専門学科の設置は難しいところもあるため、それぞれの県立高校は地域のニーズをふまえて特色化・魅力化に取り組んでいる。例えば、稲生高校の普通科では、６つのコースを設置し専門学科に近い学びを提供している。

〇　当地域の県立高校の学びの選択肢がこのままであれば、１５年先までにかなりの学級数を減らさざるを得ない。しかし、四日市地域や津地域の専門高校へ一定数の生徒が流出していることをふまえると、鈴鹿市内の高校に工業、商業、農業などの職業系の専門学科を設置することで、学級数の減少を抑えることができるのではないか。市内の事業所からも人手不足であるという声が大きくなっており、ぜひ設置を検討してほしい。

（２）鈴鹿亀山地域の中学生の進路の状況等について

◇　鈴鹿亀山地域の中学校卒業者の約４割が地域外の全日制高校へ進学しており、特に、当地域に設置されていない工業科や商業科へ一定数の生徒が進学している。そのため、これら職業系専門学科が当地域に設置されれば、子どもたちの地域外への移動が少なくなり、学級減の必要もなくなるのではないか。

◇　難関大学への進学を希望する生徒の多くが、神戸高校ではなく、四日市市や津市の普通科高校へ進学している。また、国公立大学への編入がしやすいということで、高等専門学校（高専）を選ぶ生徒もいる。子どもたちや保護者の中にある学校の序列を打破するのは難しいので、当地域でこのようなニーズに応えていくためには、学校だけでなく行政も協力して抜本的な改革に取り組む必要がある。

◇　コロナ禍で学校見学がほとんどできなかった時期には、子どもたちはより迷いながら進路選択をしていた。現在は一人一台端末があるので、動画で各高校の学習活動や部活動の様子を配信すれば、子どもたちがより身近に学校の魅力を感じることができるのではないか。

◇　亀山市から鈴鹿市内の高校へは交通の便がよくないため、亀山高校かＪＲ沿線の四日市市や津市の高校を選択する生徒が多い。鈴鹿市内の高校へ通いたいと思う子どもたちのために、路線バスの経路の見直しや通学バスの運行などの支援をお願いしたい。

○　大学進学を考えている中学生の多くが、四日市地域や津地域の普通科高校へ進学しており、以前と比べて神戸高校の魅力が低下しているように感じる。当地域の子どもたちを地域に残していくための取組をするべきではないか。例えば、当地域に公立の中高一貫教育校を設置するのも、ニーズがあれば１つの選択肢になりうるのではないか。

（３）再編を検討するうえで大切にしたいこと

◇　商工会議所では、小学校、中学校、高校の段階に分けて、地元企業の魅力を伝える取組を行っている。また、稲生高校の自動車工業コースに、市内の事業所から講師を派遣したり、同校の介護福祉コースに、市内の介護福祉施設が実習用の介護ベッドを寄付したりするなど、地元経済界が学校とともに子どもたちを育てるという意識で、地域の教育活動に参画している。

◇　当地域の小中学校には外国につながりのある子どもたちが多く在籍していることから、高校においても、外国につながりのある生徒を受け入れ、学びを支えていくという視点が大切である。

○　部活動が充実していることは、高校を選択する際の大きな魅力の１つとなっている。全ての高校が小規模化されて、十分な部活動ができなくなってしまわないよう、部活動の活性化という視点も大切にしてほしい。

○　工業高校を設置するには、施設整備のために多額の予算が必要となる。少子化が進む中にあっては、既存の学科・コースの学びに予算を投入し、時代のニーズに沿った専門性の高い学びを充実させるほうがよいのではないか。

○　当地域に専門高校をつくったとしても、他地域の実績のある専門高校を上回る魅力がなければ、近いというだけで生徒は選んでくれないだろう。

○　人の役に立ちたい、地域の力になりたいと思っている地元志向が強い中学生は多い。四日市地域や津地域へ進学する生徒も一定数いるものの、当地域の各県立高校のニーズは高いと感じている。

○　令和２年度に就学支援金制度が拡充されたことにより、県立高校と私立高校の経済的負担の差が小さくなったため、生徒は学校の特色をより重視して高校を選ぶようになっている。県立高校の学びと配置のあり方については、私学の状況もふまえて総合的に考える必要がある。

（４）今後の協議に必要な視点や進め方

◇　鈴鹿市と亀山市がそれぞれ独自で運行するコミュニティバスについて、市を越えて連携させ、鈴鹿・亀山間の交通の利便性の向上が図られるよう、当協議会から行政へ提言することを検討してはどうか。

◇　当地域の高校の統廃合や学級減を考える際には、他地域の職業系専門学科への進学をどう捉えるのかを議論する必要がある。

◇　全国的に不登校の児童生徒が増加していることから、中学校までにしっかりと学ぶことができなかった子どもたちの学び直しの場も高校には必要ではないか。

◇　地元の高校で学んだ生徒が、地元に就職することも大切であるが、他地域の高校で学んだ生徒や県外の大学に進学した生徒が、地元に戻って働きたいと思えたり、それを実現できたりする仕組みづくりも必要である。

◇　15 年先を見据えたとき、１学級 40 人という基準が引き下げられれば、学級数を維持しながら教育を充実させることができる。法律で定められている１学級あたりの生徒数や教職員定数の基準の見直しについて、当協議会を含め、いろいろなところで声を上げていくべきではないか。

◇　小規模な高校では、生徒一人ひとりに丁寧な指導が行き届くというメリットがあると聞いている。一方で、いじめ等があった場合に、クラス替えが難しいなど、生徒の安心できる場の確保が難しく、その結果、退学を選択せざるをえなくなるケースがあるとも聞いている。どれくらいの学校規模が適切かはわからないが、統合や学級減を検討する際には、いじめ防止の観点からも慎重に考えてほしい。

○　それぞれの学校が特色化・魅力化に取り組み、情報発信に努めているが、即効性のある取組もあれば徐々に浸透する取組もある。今後も学校関係者評価委員会等の意見を聞きながら、学校の活性化に取り組み続ける必要がある。

資料 10

他地域における協議会のまとめの状況について

	求められる学び・育みたい力	配置の考え方
伊勢志摩（R４）	・大学進学や就職などの進路実現につながる多様な学び ・学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び ・地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び ・一人ひとりへのきめ細かな関わり ・自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力 ・将来、地域の担い手となる人材や地域に戻って活躍する人材の育成につながる学び	【学びを実現するための配置の考え方】 ・現在の高校配置の継続は困難となり統合は避けられない ・専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持 【今後の協議にあたり検討や配慮すべき事項】 ・地域の小規模校がこれまで果たしてきた役割を大切にしながら、学校個別ではなく地域全体で高校の学びを考えて統合を協議していくことが必要 ・交通が不便な地域における学びの機会の提供方策 ・中学生への事前の周知 ・定時制、通信制課程の学びの活用 ・規模が小さい学校や近くの学校を求める生徒の思いへの配慮
紀南（R４）	・多様な進路に応じた学びの選択肢が充実し、生徒が主体的に学べる学校 ・校内外の生徒や社会とのつながりの中で、社会性や協調性、コミュニケーション力を育む学校 ・学校行事や部活動が充実し、生徒が活発に活動できる学校 ・多様な生徒１人ひとりに丁寧に対応したきめ細かな指導が充実している学校	・令和７年度に地域全体で１学年の総学級数が５学級となる中、こうした学びを実現するためには、２校を一体的に運営するとともに、これまでのきめ細かな学びを継続できる高校としていく必要がある。

	求められる学び・育みたい力	配置の考え方
伊賀（R5）	・自ら課題を見つけて解決する力 ・課題の解決に向けて協働する力 ・失敗を恐れず挑戦する力 ・自立する力と共生する力 ・コミュニケーション能力 ・情報を活用し、伝える力 ・地域社会への関心	【基本の考え方】 ・専門学科のコースや総合学科の系列など多様な学びの選択肢の維持 ・普通科の一定規模の維持 【具体的な協議を進める際の視点】 ・少子化の中にあっても、消極的な方向ではなく未来に向けて前向きに発想すること ・北部と南部に分けることなく伊賀地域全体で考えること、また、状況によっては隣接する地域も含めて考える必要があること ・役割や機能が近い学校をできるだけ集約させ、スケールメリットを生かすこと ・学校の選択肢を維持できるよう、当面の間は５校を存続すること ・小規模校だからこそ通える生徒へ配慮すること ・通学方法や通学時間、必要となる交通費などの状況を考慮すること
松阪（R6）	・子どもたちには、夢や希望をかなえるため、自らの可能性を発揮し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」や、コミュニケーション能力や課題解決能力に加え、問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力を育てる必要がある。 ・地域を大切にする心や地域を愛する心を育むための「地域に根差した学び」が必要である。	【基本の考え方】 （再編を検討するうえで大切にしたいこと） ①学校規模について ②学びの選択肢について （今後の協議の進め方）
鈴鹿亀山（R7）		